



懷談御伽橋

特
へ遠13
2.040
1-3





怪談沖伽梯

二之卷

目録

第一齣の入り

若松の池源は林掛が糸針掛で落る

雷僧の足名辰の物籠は城守の金

不持の玉何より刀も放るは後まをせ

小せつ本かゑ本處
古道具上るり本
古本るい一切賣買
並御不用物買受申候

大阪市西區河内わさ上通
貳丁目明治はしすじ北入
道具商 阪井儀兵衛

第二 津國蛙合戦

美甲は蝶と成り、莊子が天國を乞
 腰より分る瓢箪中に二子世界を書し
 玉の寺のき封筒とておのれをのこす

第三 松浦の大蛇

浦邊を高く着出し、通祠と入る小洲乃
 渡物倍九百年業花も敷掛の神風を
 底無き舟のわも、時々の富貴の穴

鯉の入り

洛陽東山ありて、雲霧ひくく、金谷海乃馬所乃東に
 ありて、豊國の社、送受の時、今の三條の末なるまじり
 其馬所あり、着すこふ子も、おのれを今も、天國
 若んんとありて、そ中、持まらけ、名小字を、て、秀雲僧正
 因昔、いほ、ひけ、る、元、る、持、字、多、外、傷、あ、く、人、歎、ひ、を
 時の帝、後、系、皇、の、院、御、く、信、じ、あ、ひ、お、く、四、殿、お、た、お、く
 従、法、が、と、同、く、百、れ、に、は、僧、正、只、女、の、性、の、ひ、ぐ、と、ま、る、後
 燈、の、又、降、之、逢、の、た、を、志、矣、一、因、公、如、夜、又、の、を、て、送、て、女、を
 今、の、女、の、な、ら、物、も、と、と、先、爾、わ、海、の、若、お、ひ、わ、り

是後のさうきうなるは新にせんと同加わるといふ
く愛し夜のさあは海外と裁きられ小姓徳とらん
ふふかふふ情ありと能くえんを懸き我為權を
きるといふとては後同と様一事勿解と一其法
ありと下されしと所ゆとれ僧ふよとれぬいふ其法
ありとしかと捨てふ小姓かといていやくうらひやれ
んを今こそ蘭のあまの涙るあまひあり秋風のあ
まの追出されせんこのをせられ佛祖にけりいじと
誓ひてふをさあてふすつとれを君のともを和くといとめ
木の葉の白葉とこそなる風情なる時家候の女とせは様子
ありと男の涙とせはまのよれとあまをいふ事とあて候
ぬつとれふとていふとんといふ徳正所とつとる起出を

てる禮ひいふふれを佛祖にけり誓ひのいふとあはれ
誓ひのあまといふとてのあまも涙り抱とあまをいふと
ふとていふとていふとあまをいふとあまをいふと
そとていふとていふとあまをいふとあまをいふと
けり時あつた候は天の去りていつるま中あまをいふと
三首の徳とを里ありていつるま中あまをいふとあまをいふと
あまをいふとていふとあまをいふとあまをいふとあまをいふと
とていふとあまをいふとあまをいふとあまをいふとあまをいふと
候とていふとあまをいふとあまをいふとあまをいふとあまをいふと
すめあまをいふとあまをいふとあまをいふとあまをいふとあまをいふと
とていふとあまをいふとあまをいふとあまをいふとあまをいふと

多事(たじ)の船(ふね)と知(し)成(なり)りて海(うみ)を驚(おど)りて死(し)せりと
唐(たう)をすもははせり淡(たん)海(かい)のめなまをいひのむかりか
とくちのまじくむひひよあるもとあむし原(はら)の義(ぎ)経(けい)新(しん)國(こく)員(いん)
そり文(ぶん)武(ぶ)の大(だい)將(じやう)皆(みな)を智(ち)のまを美(み)女(にょ)のためようむら
男(おとこ)とわらふ事(こと)かをふいし海(うみ)を神(かみ)母(ぼ)世(よ)は名(な)を
身(み)して高(たか)麻(ま)らふ慈(じ)女(にょ)まをせられ今(いま)あふ海(うみ)を
是(こゝ)のま母(ぼ)まをせられ今(いま)あふ海(うみ)を
婦(ふ)女(にょ)あふる長(なが)根(ね)ふりて二(に)び母(ぼ)まをせられ今(いま)あふ海(うみ)を
仰(おほ)むとわられため佛(ぶつ)法(ぽう)を修(しゆ)せよとあむし原(はら)の義(ぎ)経(けい)新(しん)國(こく)員(いん)
法(ぽう)り是(こゝ)の智(ち)經(けい)をり佛(ぶつ)系(けい)の佛(ぶつ)舎(しゃ)利(り)かり今(いま)新(しん)國(こく)員(いん)
是(こゝ)のま母(ぼ)まをせられ今(いま)あふ海(うみ)を
りあむとて二(に)び母(ぼ)まをせられ今(いま)あふ海(うみ)を

いふ心(こゝろ)腹(はら)をりいひせんこむり付(つ)空(そら)より可(か)の食(たべ)物(もの)を
天(あま)のたひかりと二(に)香(か)ははるふ河(か)やん咽(のど)より痛(いた)むける
後(あと)は氣(き)味(み)りるむと吐(は)んとすれぬむ時(とき)繩(な)わてりやふ見(み)
ことせんすれぬのんを痛(いた)む後(あと)は繩(な)まをひひぬむいひを
よりぬ海(うみ)に羅(ら)那(な)の船(ふね)の中(なか)をわたりけり羅(ら)那(な)へはび大
さなる船(ふね)を掛(か)りしれ是(こゝ)のは命(いのち)とまはた船(ふね)と名(な)を
てたんとすふ中(なか)くわがれあをれ人をとりたてり側(わき)へ
あふさうはしつあふしをわたりけり羅(ら)那(な)とくれたをさまは
腹(はら)をりて痛(いた)むとせん梅(うめ)とてたを殺(ころ)せんを時(とき)に
羅(ら)那(な)は目(め)鼻(はな)を死(し)せむとせむとカ(か)る四(よ)よあはは羅(ら)那(な)と名(な)を
人(ひと)がらりとす入(い)化(か)物(もの)とて錢(ぜに)をひく宴(うたげ)をするふまを佛(ぶつ)
通(とお)り合せあまらふふ回(まわ)りてはひひんと制(せい)してめを化(か)のては

多事(たじ)の船(ふね)

唐(たう)をすも

とくち

をく妻女いふれ同前そ興が法師成らるぞ。そと死
僧正俊をまじ石の次才とこまどと滞り。孫がうく念を
ゆけて死をかち命は信ねらる。板津おも。雷信とい
海も守りかひて。孝徳のさるを知らり。あく。新といふ
佛法をけけいさる。本のみも石の事を改り。命を救ひ
まゝとれを新あとい死をのぼら。佛舍利と出。縁起を
滞り。てび。孫もあ。の。我。海。の。在。ま。つ。り。と。色。う
る。守。り。の。事。事。事。せ。あ。く。は。新。は。あ。く。い。つ。た。め。の。と。わ。れ。が
皮。傷。を。と。め。浦。の。そ。の。た。せ。ん。の。の。の。う。ま。い。我。も
く。い。つ。た。た。ら。の。ま。う。一。人。の。あ。板。を。板。あ。ら。う。の。の
理。を。り。い。つ。た。い。い。ふ。若。う。う。う。ま。り。と。か。や。あ。う。

津國 蛙合戦

按は必名越の国は眼寺に。吾養とよる。と。あ。り。る。
い。寺。の。産。の。衆。の。い。る。と。も。あ。ぬ。蛙。の。わ。り。一。及。と。合。を
あ。ま。い。の。り。の。餘。り。あ。ん。と。あ。ぐ。い。け。ま。か。り。い。て。あ。け。る。
比。し。も。早。稲。と。る。遠。小。野。は。い。ま。の。あ。越。て。若。氏。の。長。柄
の。活。の。い。う。ゆ。め。い。と。く。あ。れ。を。わ。り。と。際。り。書。け。る。天。月。奴
う。び。と。都。の。寺。住。い。林。の。ゆ。た。た。と。く。も。せ。現。た。あ。る。を
ま。う。ぬ。お。ま。い。武。士。ま。い。と。の。あ。い。思。い。我。の。日。次。あ。れ。を
下。さ。り。い。た。の。楚。た。り。板。も。面。國。王。の。活。は。蛙。合。戦。の。り
大。塚。死。集。り。い。い。身。も。一。方。加。勢。は。信。從。せ。れ。は。今。あ。る。い。
老。武。者。と。ト。う。の。く。あ。ま。い。の。い。が。定。て。討。死。は。る。へ。我。の。觀。見

法界一併成道と兼い六韋本國と成傳の控ひにせむや
のまじりん事比と人の處すまひて見物流法のかどく
其廿八位は事毎事毎なるがり縁づくは今廿念を
受く道岸のまきめとほふいと洞とほじけるを養うき
らぐ不役の事にひい念法教化十念と授別ををさ
ける館りよ不思候とまひて然とまひりるふ實と金
いの法は教万法の法ある方々すし法の聲天よひと地よ
るき飛りて入札を軍のたてを敷ける押けと今相替は
この法所をたて法の志をばるふ事しけるも有らん東の方
赤東の法をたてひ出名案りるふ是も高玉純馬の法も事と
かま七と我事と性青保元平治の法後念法の二層が衆
みとん法をたてする相替のひもと名をたて我とあつん

若わらぬ出わらぬとを候りける西の方をたてし法二足二足
出たれが千事をたせし得らるかこし何の者もあは
伏し候かたは法は廣言とてそまじりける西の方より
あつん法をひ出押せかひて若も同つらん當國は法をた
法は法の法ひきし法をたつらんものもあつんかま七と
しつらん早く飛りてむすし細志を勝負分をばりし
力の強りらんがま七つらまきらんらんがま七つらまき
の法も大勢をひ集りがま七つらまきと思ひ入責られん
とんれ多勢にを勝らるはくあつん法をたつらん法をた
和は水行法二足つら押せかひて若も同つらん當國は法をた
の男をたつてあつん生同の水をたつらん法をたつらん
とらつひを二人の男もたつらん法をたつらん法をたつらん

既なる今一人尾の方とあはさすはあつりしはあひ
はひて後より我勇たけしん儀のまじりて川原のさうり
とよみて川原を授死せりしと三人の男もたれお座れとまじ
成りしうらちあ二人の魂をたれお座れ川原のさうり
今ふりかんと三日月の月をみはせりいひていふをえん
せんそ大勢はひり入るに三三三と赤掛のつれいし動ゆられ
東のたの乱を三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
ける敵の味方うらちあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
くく敵の中よれあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
謀一のせられよに汗あつりて居たりと三三三と三三三と三三三と
と物もせんはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と

自負をせさるる自負あつりしはあひあひあひあひあひあひ
戦ひりる者をせんはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
らん儀中よれあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
とむ程なり年経あつりてはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
然るもいふ若き時あつりてはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
あつりてのあつりてはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
より後のあつりてはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
の精統をせんはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
船舟の水の四流をせんはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
入りのあつりてはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
中の精をせんはあ三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と



なりて下。且又新國の役をいふは、
 海をたぎれて、うらまを三人令と下され、
 日本をたぎる事、もつた令、役をたぎらる、
 夜、新國の役、と下され、
 新國の令、千年とゆふ、
 氣力と養ふ、
 りと、
 とす、
 と朝、
 秋の月、
 や、
 の、

年の、
 の、
 し、
 重、
 自、
 先、
 よ、
 任、
 目、
 日、
 古、

